

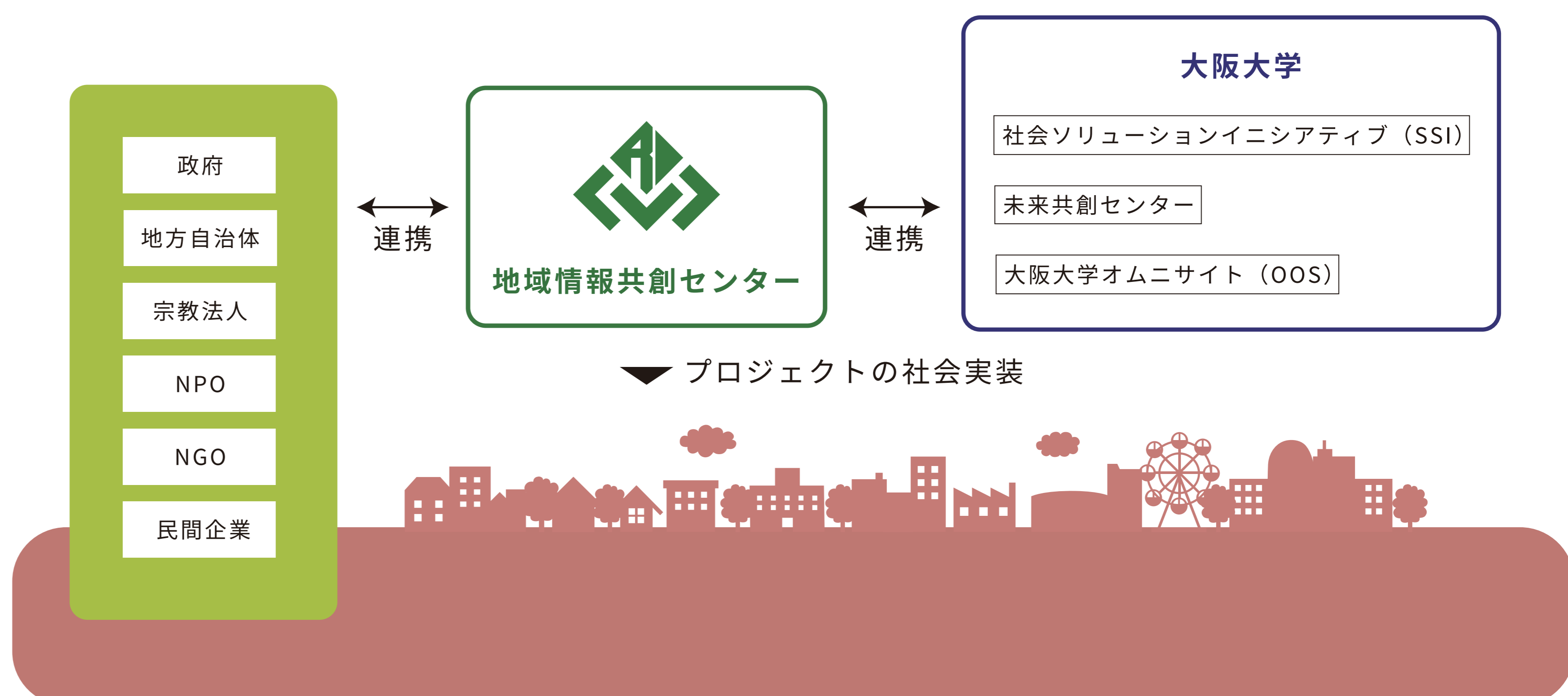
# 一般社団法人地域情報共創センターは、 大阪大学を中心とした共同研究やプロジェクトの 社会実装を行うべく設立された一般社団法人です。

大阪大学で2017年から行われていた共同研究『ITを用いた防災・見守り・観光に関する仕組みづくりの共同研究』、および、2018年から大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）基幹プロジェクト「地域資源とITによる減災・見守りシステムの構築」において、「未来共生災害救援マップ」（通称「災救マップ」）、独立電源通信システム（愛称「たすかんねん」）の開発を進めてきました。

上記のプロジェクトが研究してきた社会課題解決の実装を行うべく設立されたのが当法人です。

当法人は、大学と社会のステークホルダーとの中間に位置する立場から、あらゆる個人、法人、団体、学会、行政等との連携を通じて、地域生活に関連する様々な問題を解決することを目的としています。

その目的に資するため、「災救マップ」「たすかんねん」等のプロジェクトの社会実装に取り組んでいます。



## 未来共生災害救援マップ（通称「災救マップ」）

災救マップは、避難所情報を管理・参照するためのウェブ情報サービスです。防災の取り組みを通して、自治体、自治会、学校、寺社・教会等の宗教施設、NPO などによる平常時からのつながり、コミュニティ作りに寄与し、災害時には救援活動の情報プラットフォームになります。災救マップのシステムおよびデータベースは、大阪大学の知的財産であり、（一社）地域情報共創センターが大阪大学の研究開発成果である災救マップの社会実装を担っています。

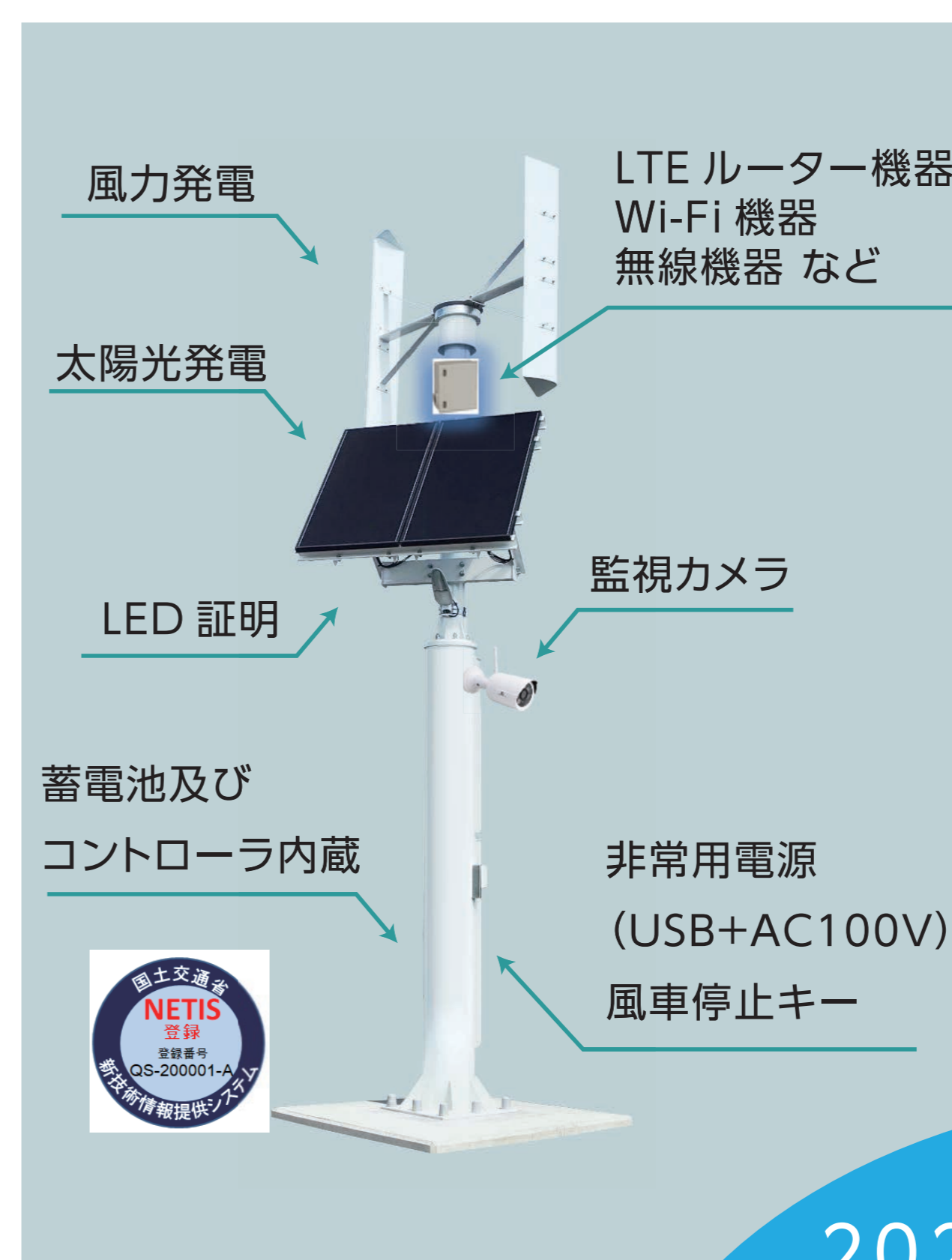


災救マップへは  
こちらから



## 独立電源通信システム「たすかんねん」

「たすかんねん」は、風力や太陽光発電といった再生可能エネルギーによって発電・蓄電された「独立電源」を活用し、無線通信、照明、カメラ、スマートフォンへの給電等機能を活用できるようにしたシステムの総称です。このネットワークが街中のあらゆる所に構築されることにより、災害などによる停電時にも独自の通信網で外部との連絡ができるようになる公共ネットワーク化を目指しています。国府省庁はもち



ろんのこと、全国の地方公共団体・基礎自治体を始め、多くの企業やNPO、地縁組織とも連携し、「たすかんねん」による独立電源通信のネットワークづくりを推進しています。

2021年11月、  
大阪トヨタ自動車本社ビルの屋上に  
「たすかんねん」が設置されました



## 災救マップの自治体導入事例

### 鹿児島県鹿屋市

鹿屋市向けの災救マップを提供。鹿屋市ホームページの他、市民向け情報提供アプリ「かのやライフ」からもご覧いただくことができます。

### 鹿児島県南九州市

南九州市向けの災救マップを提供。南九州市ホームページからご覧いただくことができます。